

沿岸海域活断層調査（サロベツ断層帯）

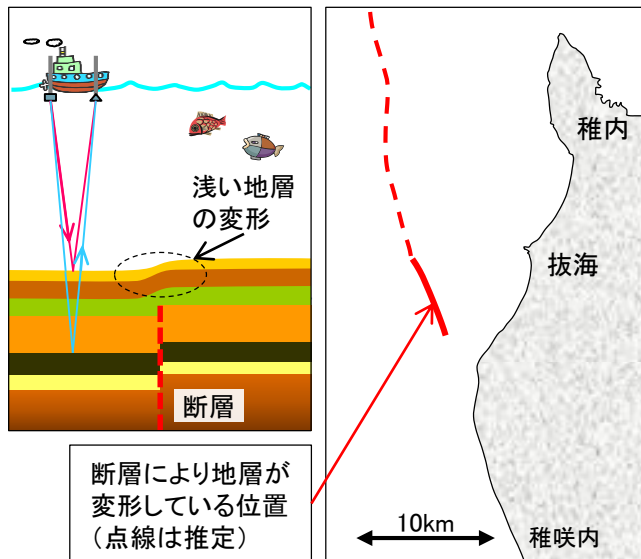
サロベツ断層帯海域部の活断層の分布や活動状況を調査・解析しました

背景

- 沿岸海域の活断層に関しては、分布や規模、活動履歴などがほとんど把握されていません。
- 能登半島地震（2007）などを切っ掛けに、国が沿岸海域の活断層調査を開始。道内では6断層を調査する予定です。

成果

1 音波探査で断層活動を確認

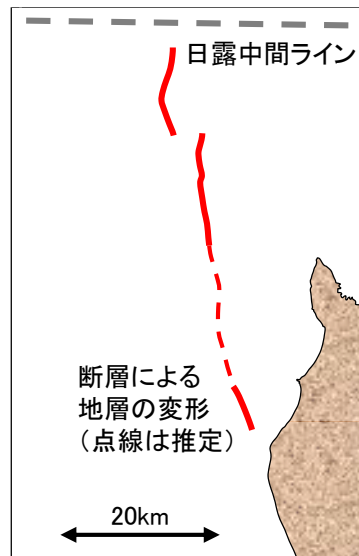


浅い地層の変形が、海底下深くにある断層の活動により形成されたことが判明。

期待される効果

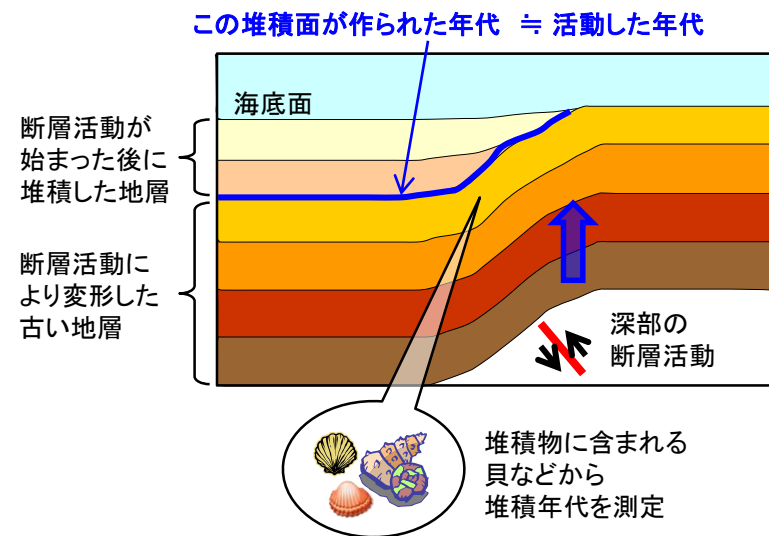
- 海域調査により、陸域の調査では分からなかった新たな情報を得ることができ、国（地震調査研究推進本部）の活断層の再評価に貢献。評価結果は、今後、道や地元自治体の地域防災計画の改訂等に反映されます。

2 断層分布状況を把握



少なくとも日露中間ライン付近までの断層活動の存在が推測され、地質構造から、さらに北に延びる可能性。

3 堆積物から断層が活動した年代を測定



過去に少なくとも2回（約5,000年前と約8,000年前）、断層が活動したことが判明。また、1回の断層活動では、平均して上下方向に約3mずれることが判明。